

令和2年度

八万中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生きる力につながる学力向上を目指して
- ・自信を持たせ、自ら進んで取り組もうとする意欲を育てる
 - ・「話し合う力」「読み取る力」「まとめる力」をより高める

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	山口 麻里	研修主任	天羽 和恵・板東 幸治
天羽 和恵		教頭	吉田 光宏	1学年主任	板東 幸治
板東 幸治		教頭	岩野 伸哉	2学年主任	浜崎 加代
		教務主任	新田 恭一	3学年主任	栗田 恭史

校長

山口 麻里 印

【各校の取組状況の把握について】

・学校評価アンケート、各テストなどによる現状把握、管理職による授業参観、教員自身の振り返りなどを活用

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に対する取り組みは大変真面目である。授業中に指示されたことは誠実にやり遂げようと努力できる生徒が多い。 ●授業中は真面目に取り組むが、自らの意思で学習に取り組む意欲の低い生徒も少なくない。また、課題を提出することが目的になっており、課題が学力の定着とつながっていない生徒が多い。	受け身の姿勢から主体的な姿勢への変換を図る	①授業に取り組む姿勢を褒め、自信を持たせる。 ②課題に取り組む前向きな姿勢を褒め、自信を持たせる。 ③キャリア教育の見直しを図り、なぜ勉強するのかを自分のこととして考えさせる。 ④授業中の発問に、「なぜ」「どう考える」「疑問に思ったところは」など、主体的に取り組もうとさせる発問を入れていく。	自覚や様々な経験がきっかけとなり、学習に意欲的に取り組もうとする生徒が、少数ではあるが増えつつある。今後も、より伸ばしていくために、「具体的方策」を意識した授業づくりを進めていく必要がある。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を発表することが得意であると考えている生徒は多い。良好な人間関係の中で学習を進めることができている。 ●昨年度の分析から「自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが不得意だ」と感じている生徒が半数以上いる。自分の意見や考えをわかりやすく伝えるための方策や相手の意見を受け止めてそれに学びを深めるなどの手法をさらに習得する必要がある。	「話し合う力」「読み取る力」「まとめる力」をより高める	①自分の考えを出すことができる学級の雰囲気、今後も続ける努力をしていく ②「話し合い5ヶ条」などを使い、話し合いのスキルを高め、より深い話し合いを行うことができるようにする。 ③「視写」「要約」などを取り入れ、正しい文章を学ぶ機会を計画的に持つ。	・まとめる力 ノートづくりなどの中で、わかったことや自分の考えを整理しまとめる力を育てる。さらに、作成したものを生徒相互により評価をさせ、「よりわかりやすいまとめ方」を見いだしていく。 ・読み取る力 授業中、朝自習などの時間に、文章を読ませる時間を数多く取り、読むことへの抵抗感をなくし、要約する力を育てていく。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイムが鳴る前に授業の準備をし、着席する習慣が身につけており、授業を大切にしている習慣が定着している。 ●自らの課題を見つけ、その克服に向けて長期的に努力することは苦手である。家庭学習の習慣も十分ついておらず、与えられた課題を仕上げることで精一杯の生徒も多い。	「わかる・できる」体験を繰り返し、自分からチャレンジしてみようとする意欲を高める	①2分前着席を今後も徹底していく。 ②授業中、「めあて」「振り返り」を徹底し、生徒自身に達成感を実感させる。 ③「学校から与えられた課題をこなすことの大切さ」を根気強く伝えていく。 ④スモールステップで「わかる・できる」の体験(実感)を繰り返し、次に向かいたいと思わせるよう心を育てていく。	生徒の実態をその都度見極め、生徒に適した進め方を工夫し、「授業がわかる」ことの安心感、「課題ができる」ことの喜びを味わわせる。		

令和2年度 学力向上ロードマップ

